00 曽於市の未来に向けた「末吉ならではの学び場」をつくる

■地域ならではの学び場を目指して

少子化や人口減少などの課題を抱える日本では、 各地域がこれからも活力を維持していくために、 学校教育では「地域ならではの学び」を実践する ことが重要です。提案にあたっては、末吉小学校 における地域教育を考えるため、私たちは何度も 現地へ赴き、この地域ならではの学び場について 考えてきました。

■地域がつながる学び場「郷中教育」の実践 ■交流と生活がゆるやかにつながる坂みちのまち

薩摩藩で確立した「郷中教育」は、地域の誰 もが教える教えられる立場になる学びあいと た坂みちのまちです。起伏のある 自主性を重んじる教育です。現在行われてい 地形をつなぐ交流の場である「み る箒づくりなどの地域との連携や中高生との 学びあいを末吉ならではの郷中教育として実 践し、ハード・ソフト両面で「地域に開かれ、吉町の構成にならい、「みち」を

末吉町はかつて街道に沿って栄え ち」と、活動や生活の場が路地や

坂みち 坂みち

■交流を生む「まちのみち」「出会いのみち」と生活の場となる「学びのいえ」

まちとつながり、地域の人々が気軽に訪れる「まちのみち」、異学年をつなぐ特別教室で の活動・展示・図書などが溢れ出す「出会いのみち」、 学年ごとの落ち着いた生活の場と なる「学びのいえ」をつくり、3つの空間をゆるやかにつなぎます。

こどもたちが地域や異学年とつなが りながら、活動に合わせた居場所を 自主的に選ぶことのできる学びあい の場となります。



まちのみち 出会いのみち 学びのいえ 地域の人が気軽に通る道 異学年や情報に出会う道 落ち着いた生活の場

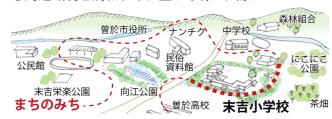


01 まちに開き、共に学びあう「郷中教育」の場

④地域住民も利用しやすく親しまれる小学校の実現のための提案

■誰もが学びあいに参画できるきっかけをつくる

- ①気軽に訪れることのできる「まちのみち」
- ②まちに開いたえんがわ空間と迎え入れる屋根
- ③周辺環境と調和する、豊かな緑の風景



②安全・安心な小学校の実現のための提案

■地域に開き、地域で見守る

- ①歩車分離を徹底した、誰もが安全に歩ける環境 ②多層的な空間による柔軟なセキュリティライン
- ③大人の目を分散させ、敷地全体を見守る

02 世代・学年・特性を超えた交流の生まれる場

③機能性・効率性を重視した小学校の実現のための提案

■豊かな活動と交流を生む、新たな学びの空間

- ①木造と RC 造を組み合わせた、適材適所な機能配置 ②教職員の連携を高める、効率的な執務環境
- ③立体的な回游性のある、どこへも行きやすい動線計画
- ④学年をつなぐ交流を生む「出会いのみち」
- ⑤フレキシブルで温かみのある木造の学年の居場所「学びのいえ」



03 曽於市ならではの原風景を感じる場

⑥周辺環境への配慮に関すること(日影、音環境等に関する提案)

■暮らしに配慮し、まちとの関係を整える

- ①日影と圧迫感に配慮した低層の建物配置
- ②音に配慮した校舎とグラウンド配置
- ③心地よい緑豊かな風景をつくる
- ⑧ 鹿児島の気候の特性を踏まえた日差し対策やOSの活用を視野に入れた空間に関すること)

■鹿児島の豊かな環境特性を活かす

- ①日差し対策により、安定した光環境をつくる
- ②空調期間を抑える、自然風の抜ける校舎
- ③きめ細やかに個別制御のできる空調計画

⑤環境負荷の低減に関すること(省エネ, CO2 削減に関する提案)

■LCCO2 を削減しつつ、快適な環境をつくる

- ①建設に伴う負荷を削減する、合理的な構造計画 ②木造棟で外皮を包み、RC 棟の熱負荷を低減する ③将来改修や維持管理の容易な構造/設備計画
- ④地域の素材を地産地消する

04 地域教育の未来を、将来に渡って共に考える

⑨業務実施手順を示す実施フロー及び工程計画に関すること

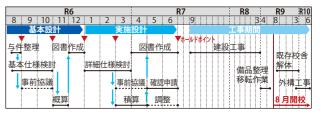
■まちのみなさまと共につくる

- ①持続的に地域に携わる東京・鹿児島の協働チーム
- ②末吉ならではの地域教育を目指す
- ③ 曽於ぐるみの学校づくりのプロセス
- ④社会情勢を見定めた確実な工程 / コスト管理

(7)工事期間中の学校活動等におけるスペースの確保や児童や教職員への配慮等に関すること)

■安全に配慮した建替え計画

①工区/工程の少ない、シンプルなローリング計画 ②学校活動に配慮した、無理のない工程計画の設定



学びのいえ

落ち着いた生活の場

出会いのみち

異学年や情報に出会う道

まちのみち

地域の人が気軽に通る道

まちに開き、共に学びあう「郷中教育」の場



■誰もが学びあいに参画できるきっかけをつくる

①気軽に訪れることのできる「まちのみち」

敷地内に市役所や向江公園からつながる道を引き込 み、旧正門から北西スロープまでぐるりと「まちのみ ち」をつくります。公園のように地域の誰もが気軽に 訪れたり、日常的に安全に通り抜けることができます。

②まちに開いたえんがわ空間と迎え入れる屋根

「まちのみち」に面して特別教室や図書室を配置し 校内で行われる学びを見えるようにします。こどもた ちの活動・作品・図書が見えることで、地域の人の興 味を促進し、学校に関わるきっかけをつくります。 建物外周にはえんがわやパーゴラなどを設け、ヒュー マンスケールな居場所をつくります。開かれた柔ら かなファサードは、まちへの圧迫感を軽減します。

③周辺環境と調和する、豊かな緑の風景

敷地内には地域の植生を活かした庭 を設え、屋外空間も学びの場として 使えるような、豊かなランドスケー プをつくります。また、植物を育て ることをきっかけとした交流を促す 「タネプロジェクト」を実施します。





「まちのみち」に活動があふれ出す

▲曽於中学校

(にこにこ公園

まちのみち

曽於市役所

向江公園

歩道から気軽に入れる

■地域に開き、地域で見守る

日常的な車両動線は、現在と同じ南角に集約し、歩車 分離を徹底します。「まちのみち」は、誰もが敷地内を 安全に通行できる開かれた遊歩道のような空間です。 日常的に地域の人が歩ける場所があることで、学校と 地域のつながりをつくり、学校の敷地内だけでなく校 区全体を地域が見守る環境とします。

①歩車分離を徹底した、誰もが安全に歩ける環境

2多層的な空間による、柔軟なセキュリティライン

まちに開きつつもこどもたちの安全を確保するために、 開かれた場と守られたこどもの場をグラデーショナル に配置し、また雁行する室配置によって様々なセキュ リティ区画のできる計画とします。

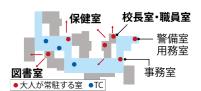
具体的には、「まちのみち」に面した特別教室と図書室 を地域開放できます。またイベント時には教室との間 を区画し共用部を全て開放することも可能です。

③大人の目を分散させ、敷地全体を見守る

広い敷地内になるべく死角をつくらないよう、職員室 や保健室、図書室、といった常時大人の滞在する管理 諸室や TC (ティーチャーコーナー) を分散して配置し、 各所に目が行き届くようにします。







世代・学年・特性を超えた交流の生まれる場

■豊かな活動と交流を生む、新しい学びの空間

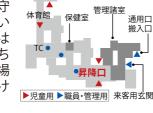
①木造と RC 造を組み合わせた、適材適所な機能配置

こどもたちの日常的な居場所となる教室 とその廻りの空間を地場産材による温か みのある「木造」、水・薬品等の使用や音 環境の制御などの機能が求められる特別 教室、水廻り等を「RC 造」とし、室の機 能に応じた合理的な計画とします。



②教職員の連携を高める、効率的な執務環境

管理諸室はグラウンドや来客動線を見守 ることのできる南東に集約し、落ち着い た執務空間をつくります。各学年の TC は 共用部に面して点在配置し、こどもたち と近い距離で接しながら執務ができる場 所とします。2つの執務空間を使い分け ることで、教職員の連携がしやす

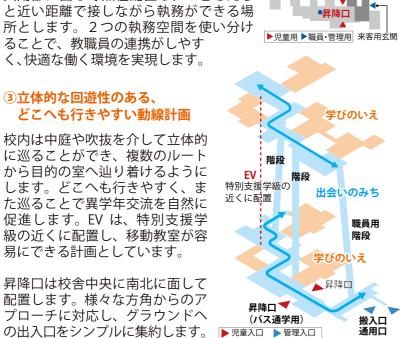


③立体的な回遊性のある、 どこへも行きやすい動線計画

く、快適な働く環境を実現します。

校内は中庭や吹抜を介して立体的 に巡ることができ、複数のルート から目的の室へ辿り着けるように します。どこへも行きやすく、ま た巡ることで異学年交流を自然に 促進します。EV は、特別支援学 級の近くに配置し、移動教室が容 易にできる計画としています。

昇降口は校舎中央に南北に面して 配置します。様々な方角からのア プローチに対応し、グラウンドへ



延床而積:6.320㎡

中庭を介して各学年クラスターと特別 教室を配置します。特別教室での学び や作品掲示を通じて、日常的に異学年 交流が生まれます。また特別教室は「ま ちのみち」に面して地域との関わりが 生まれる場となります。

「出会いのみち」には図書、各学年の 作品、学びの活動などが溢れます。 ICT を活用し、学校全体が様々な情報 庭やテラス、特別教室のえんがわは上

に触れることのできる場とします。中 足で出られる屋外の学びの場です。 **⑤フレキシブルで温かみのある**

木造の学年の居場所「学びのいえ」

こどもたちが長い時間を過ごす教室廻 りは地場産材を活用した温かみのある 木造とします。学年ごとにまとまった 棟として、中庭を中心に異学年とつな がりつつも、学級図書や教具、掲示、 ベンチなどによって、自分たちの居場 所を自由につくることができます。



学びのいえ ずみっこ ベンチ





「学びのいえ」イメージ

03 曽於市ならではの原風景を感じる場

■暮らしに配慮し、まちとの関係を整える

①日影と圧迫感に配慮した低層の建物配置

校舎は2階建として敷地南側に配置し、周辺住宅地に日 影を落とさないとともに、圧迫感にも配慮しています。 木造の縁側や低い屋根などにより、近隣の住宅に馴染む 佇まいとしています。

②音に配慮した校舎とグラウンド配置

校舎の中でも、生徒が主に滞在する普通教室は敷地中央 に配置し、グラウンドは周辺敷地よりも高台となる北側 に配置し、近隣住宅への騒音に配慮しています。敷地境 界よりバッファーを設けて校舎を配置し、敷地の周縁部 に植栽を植える計画とします。

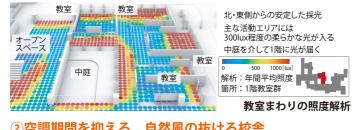
③心地よい緑豊かな風景をつくる

敷地内を巡る「まちのみち」は、地域の安全な歩行空間 として利用できます。周辺には地域の植生を活かした植 栽を施すことで、緑豊かなまちの風景をつくります。

■鹿児島の豊かな環境特性を活かす

①日差し対策により、安定した光環境をつくる

普通教室は北や東に面して配置し、自然光を活用しつつ も眩しすぎず安定した光環境をつくります。午前中の活動 にも考慮して屋根やテラスにより日射を遮蔽します。中庭 を各所に設けることにより、奥行きのある平面の中にも、 随所に光を取り入れることが可能です。南、西に面した特 別教室は、屋根やパーゴラ、緑陰により日射を遮蔽します。

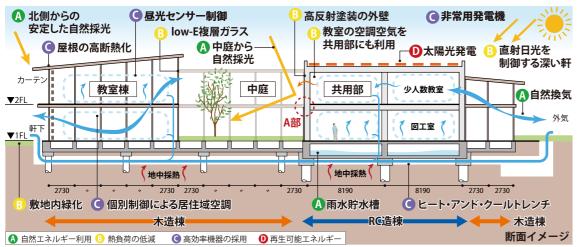


②空調期間を抑える、自然風の抜ける校舎

実測調査を元にした環境シミュレーションを行い、特に 中間期に心地よく風の通り抜ける校舎を実現します。十 分な換気量を確保することは、感染症対策にも重要です

③きめ細やかに個別制御のできる空調計画

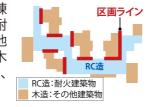
校舎全体を居住域空調とし、きめ細やかに個別制御をで ングコストを抑えることができます。



■LCCO2 を削減しつつ、快適な環境をつくる

①建設に伴う環境負荷を軽減する、合理的な構造計画

今年度の改正基準法に定められた別棟 木造を採用します。中央の RC 造で耐 火、耐震性能を確保し、木造はその他 建築物としてコストを削減します。木 造を採用し全体の建物重量を軽くし、 地盤や基礎への負担を軽減します。



②木造棟で外皮を包み、RC 棟の熱負荷を低減する

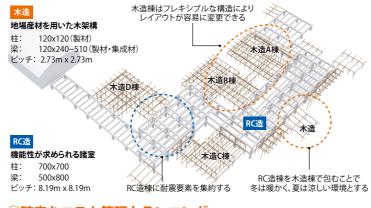
RC 棟を中心に、外皮を木造棟が包むことで、熱容量の大き な RC と外気が接する面を少なくします。特に夏場のコンク リートへの蓄熱を抑えることにより、空調機器の負担を低減 し、省エネルギー化を図ります。

③将来改修やメンテナンスの容易な構造/設備計画

耐震壁を RC 棟に集約して木造棟の地震力も負担させることで 木造棟の耐震壁を極力減らし、教室周りの将来的なレイアウ ト変更を容易にし、改修工事等にかかるコストを削減します。 校舎内にはシンプルな設備ルートを通し、また点検のしやす い設えとすることで、将来にわたって設備更新などのメンテ ナンスが容易にできる計画とします。

④地域の素材を地産地消する

木材は地場産材を、内装にはシラス左官の採用等を検討し、 素材の地産地消を行うと共に脱炭素化に貢献します。地域の 素材を使うことは地域経済の循環を促すと同時に、こどもた ちの郷土愛を育むきっかけとなります。



⑤確実なコスト管理とランニング

設計の節目で概算工事費を算出し、イニシャルコストを確実に 教育について共に考え、つくる仕組みを提案します。 きる仕組みとすることで、広い空間でありながらランニ コントロールします。また、ZEBReady 基準の一次エネルギー消 費量約50%削減を実現し、ランニングコストを低減します。



振動・騒音に配慮した床面



持続的な対話により、地域教育の未来を共に考える

可動式ロッカー

■まちのみなさまと共につくる

①持続的に地域に携わる東京・鹿児島の協働チーム

東京を拠点とするアトリエ事務所と鹿児島を拠点とする協力 事務所の協働チームとし、永く地域に携わっていくことを目 指します。各主任技術者は、全国での公共施設や教育施設の 実績豊富な設計チームが高度な専門性を活かして、質の高い 施設づくりを実現します。

②末吉ならではの地域教育を目指す

設計から開館までを通じて、鹿児島県で活動するまちづくり ファシリテーターを中心に、地域にふさわしい学校のあり方や

③地域ぐるみの学校づくりのプロセス

私達は、提案段階から地域のまちづくり活動や近隣の中高生と 関わりながら、地域ぐるみの学校づくりを行うことをきっかけ として、共に学びあう場づくりを将来にわたって実践します。

■工事中の安全に配慮した建替え計画

①工区/工程の少ない、シンプルなローリング計画

広い敷地を活かして工事区域を明快に分離し、工事エリアの区 分や工事工程をなるべく少なくすることで、引越しややり変え などの少ない、シンプルなローリング計画を実現します。

②学校活動に配慮した、無理のない工程計画の設定

工事期間中は工事エリアと学校活動エリアを明快にゾーニングし 動線が交錯しない安全な計画とします。また解体期間にも駐車場 を敷地内に確保します。学校行事やカリキュラムに合わせて、エ 事音などの影響が出ないよう無理のない工程計画を設定します。

